

明治文学アルバム



外山正一 井上哲次郎
 山田美妙 川上眉山
 泉鏡花 小栗風葉
 石橋忍月 内田魯庵
 山路愛山 北村透谷

河竹黒隠
 田岡嶺雲
 宮崎湖処子
 蒲原有明
 鳥村抱月
 東海散士
 坪内逍遙
 巖谷小波
 幸田露伴
 斎藤緑雨
 徳富蘆花

三遊亭黒隠
 広津岡嶺雲
 与謝崎湖処子
 上田敏小
 長島村抱月
 末東海散士
 二東海散士
 江坪内逍遙
 森巖谷小波
 徳幸田露伴
 国斎藤緑雨
 星徳富蘆花

樋口一葉 柳
 近松秋江 直
 長塚節 寺



明治文学アルバム

新潮日本文学アルバム 別巻

竹盛天雄

協力者

泉 名月
伊臣第一郎
宇田 健
尾山藤仁
加納一朗
川端秀子
小宮恒子
斎藤茂太
志賀直吉
島崎菊助
相馬文子
田山瑞穂
徳田道子
中根 誠
中村光夫
夏目純一
広津桃子

飛田良文
福田清人
堀越真一
松森 務
森田殷史
柳澤真次郎
与謝野 光
岩波書店
鷗外記念
本郷図書館
神奈川近代文学館
河出書房新社
慶応義塾大学
図書館
筑摩書房

津和野町
教育委員会
東京大学法学部
明治新聞雑誌文庫
明 治 村
早稲田大学
図書館
早稲田大学
演劇博物館
編集協力
日本近代文学館
株式会社木挽社

新潮日本文学アルバム 別巻1
明治文学アルバム

一九八六年一〇月二〇日印刷
一九八六年一〇月二五日発行

発行者 佐藤亮一

発行所 株式会社 新潮社

東京都新宿区矢来町七一

郵便番号一六二一

電話(業務部)03-26615111

(編集部)03-26615411

振替東京四一八〇八

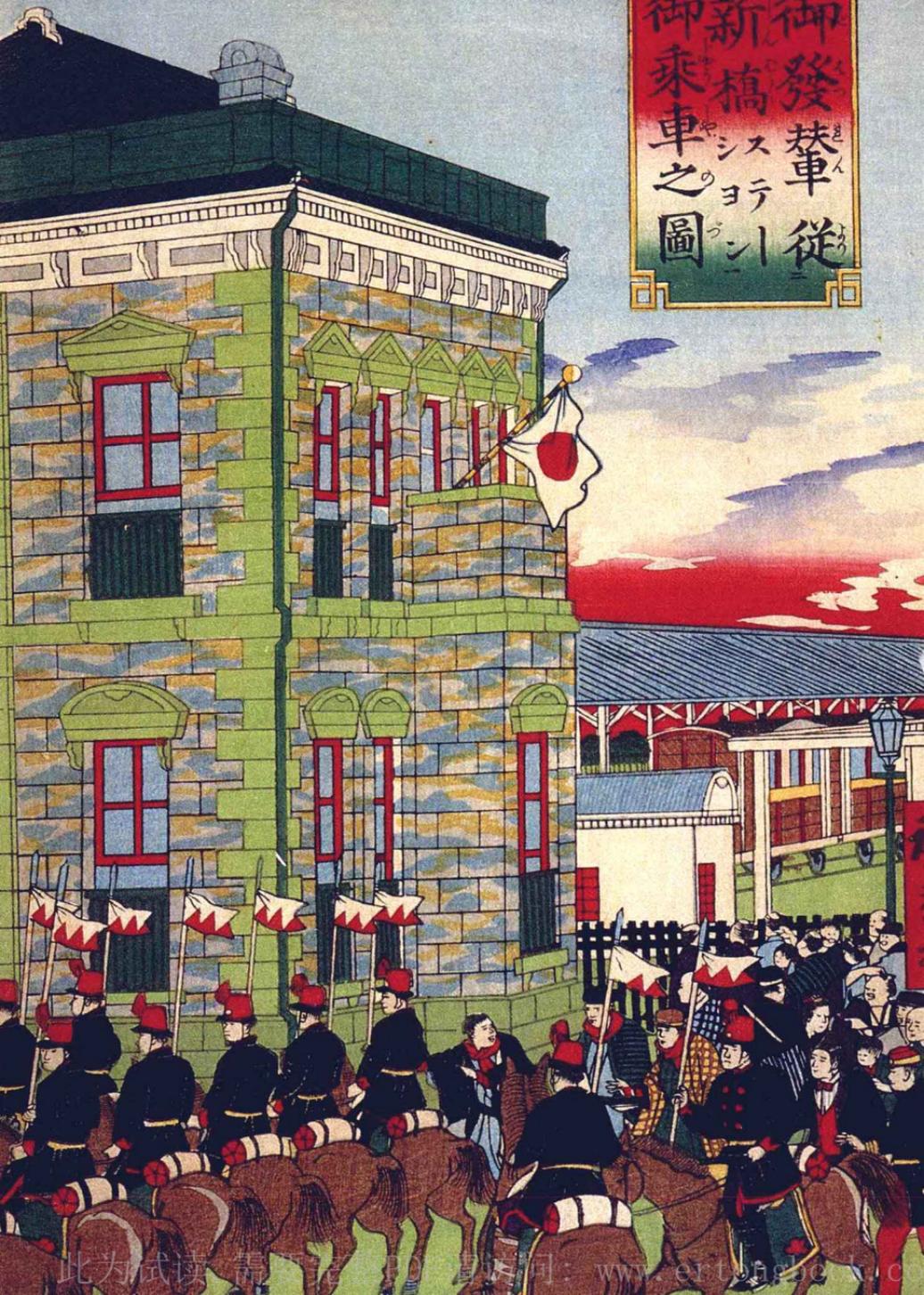
印刷 大日本印刷株式会社

製本 加藤製本株式会社

定価 一一〇〇円

乱丁・落丁本は、御面倒ですが、小社通信係宛
御送付下さい。送料小社負担にてお取り替え
いたします。

御發轎從
新橋ステーション
御乗車之圖

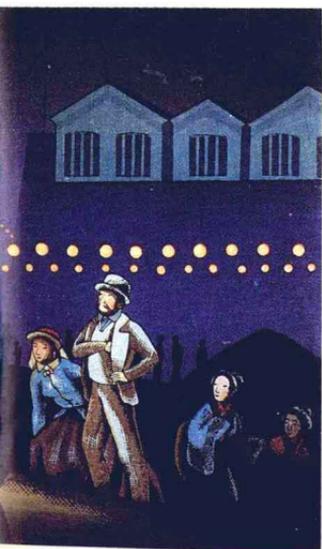




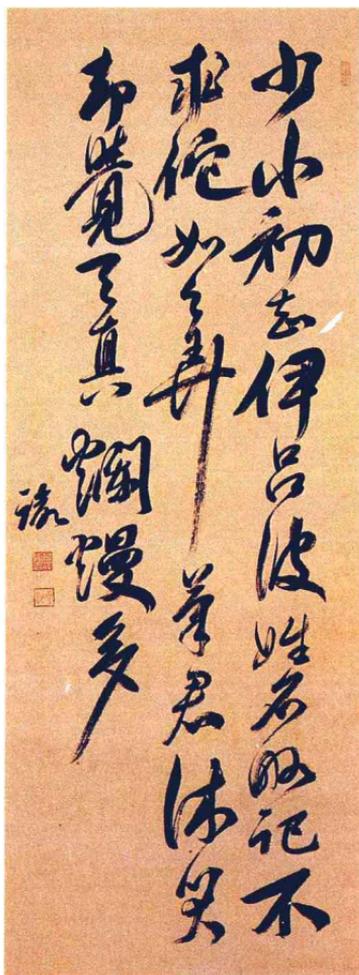
井上探景(安治)画『兩國橋及浅草橋真図』(明治10年)



近岡善次郎画『慶応義塾三田演説館』



小林清親画『第一回内国勸業博覧会・瓦斯館図』(明治10年)



福沢諭吉の書

前ページ/三代広重画『明治天皇御発
 軺新橋ステーション従り御発車之図』

西洋道中膝栗毛航条

一 概直に空域に至ると昔友賢の語に強とすたは後判も第海之中
 五十三弾 丹後作の馬士島に双 帆は兄弟を以て若根松の海濱に送れ
 美さの男と 若化の松の西洋を中 弟に金の蔵作の舟子を這回
 生土地の一河中に馬寄亭頭後百廿歸に先往西上。鬼夜光の舟の
 流然花の香目に流るる河に舟の舟も草出の物も酒花のあつた
 馬羽僧並る三合を避河し金原者の強故によはは松の傍聯に暇を
 流るる河に流るる才ト喜喜ハ初次而の強流即齊とに筆の敷
 口上ならぬ航海上の逆巻く水のあまを唯一口づつ演のべるになん

原著作 假名垣魯文

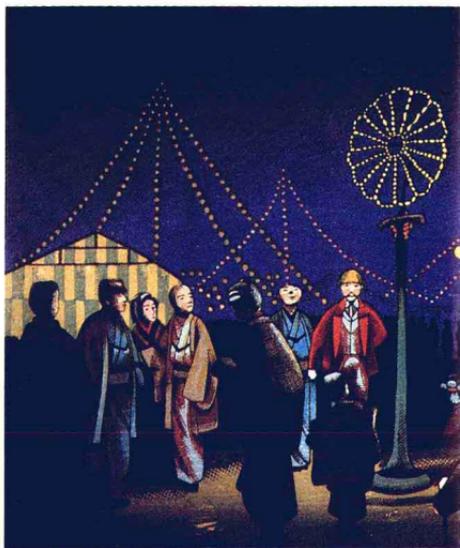


假名垣魯文の書、惶々(河鍋)晚齋画「西洋道中膝栗毛航条」。「口上ならぬ航海上の逆巻く水の筋立を唯一口づつ演(のべ)るになん」とある

假名垣魯文歌徒

此の歌徒は、假名垣魯文の著する、西洋道中膝栗毛航条の、口上ならぬ航海上の逆巻く水の筋立を唯一口づつ演(のべ)るになん、とある。此の歌徒は、假名垣魯文の著する、西洋道中膝栗毛航条の、口上ならぬ航海上の逆巻く水の筋立を唯一口づつ演(のべ)るになん、とある。此の歌徒は、假名垣魯文の著する、西洋道中膝栗毛航条の、口上ならぬ航海上の逆巻く水の筋立を唯一口づつ演(のべ)るになん、とある。

假名垣魯文原稿「慶応二年春季春浅草福井街にて」



吾兄樓閣柏石礙徒着漁和在西元于留于
 網一物閣浦蕭條且介稀 况遭家富微
 收去片留之上質人等安殺且價貴於珠
 幸年海溼咬薯蕪家舉海 君信多兼
 贈吾金銀 足強果然今會指動
 好呼一樽潤枯海
 喜水泪足已惠得且一寫賦也海
 柳弘おん子

成島柳北の書



井上安治画『柳橋』風景(明治15~20年)

東京向島の長命寺境内にある成島柳北の碑。
 心ない人のしわざか、鼻の先が欠けている



坪内逍遙の書と画「双柿舎画」。双柿舎は熱海の逍遙別邸



十下りルスキヤズト身非也取歌

、山外山正一

無言も其人居入桐の
鐘の音また元がれよ
三人の漁夫の帆を上げて
入るを指して西の海に
非はる船、道がども

妻子のあま引かき、
心のけり、世も同じ
父の船を眺めて
をまよひてイめる
舟車及び外、船屋あり
まがけ八幡人、浮津山
西の降る日、尻の夜

例、方折人も浪、波の
最とす、こま、た、時
かどか、や、な、ぬ、甲、の、身
袖のひねの、女、子の、身

三人の漁夫の妻、三人
同じ西山、又、私
誰より、お、う、同、れ、は、
若、子、折、籠、り、燈、籠、り
火、と、桃、人、と、立、寄、り、て
つ、ま、の、ま、の、さ、の、の、り
宮、の、内、け、て、姫、の、は、な
あ、る、や、な、ま、ま、あ、る、
空、下、過、る、を、む、雲、の、

色、ま、く、と、物、ま、い、
置、置、の、何、を、吹、け、と、て
取、か、さ、ら、何、を、指、せ、と、て
例、方、折、り、浪、ま、
如、舟、折、り、人、同、れ、と、て
か、せ、か、る、や、あ、る、あ、る、の、身
袖、の、ひ、ね、の、女、子、の、身

外山正一の訳詩稿
『新体詩抄』に収録

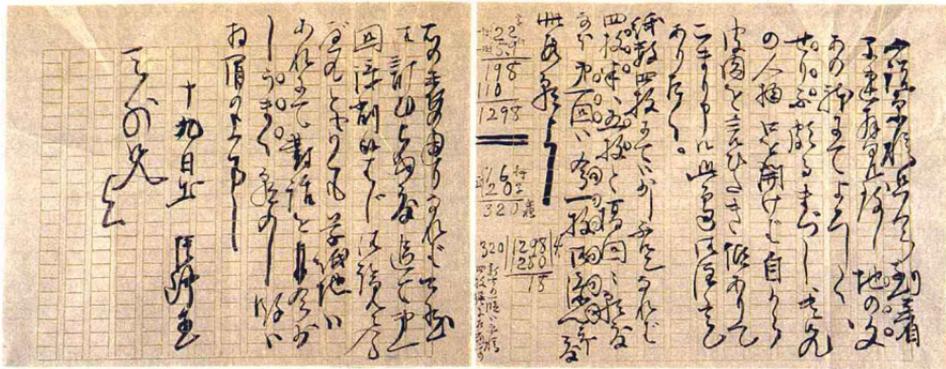
朝日か、や、人、の、磯、
雁、引、き、ま、り、て、女、折、り
跡、ま、の、三、つ、の、尻、不
三、人、の、漁、夫、の、妻、三、人
功、の、様、も、内、外、と
功、の、ま、ま、の、な、ま、か、こ
髪、振、り、私、か、ね、り
削、る、ま、の、暗、さ、を、着、て
肩、も、あ、り、た、れ、ぬ、波、の、あ、り
か、せ、か、る、や、あ、る、あ、る、の、身
袖、の、ひ、ね、の、女、子、の、身

一、と、月、も、早、く、世、ま、ま、れ、と
一、と、の、も、ろ、く、人、の、命、ま、ま、れ、と
尻、の、跡、の、腐、破、り
あ、ま、あ、る、漁、の、人、な、げ、つ、
唯、た、ま、や、あ、る、あ、る、の、身

音	
詩者、外山正一、此、詩、集、を、著、す、る、に、由、り、所、由、 入、と、出、る、語、を、平、平、二、字、に、用、い、た、り、由、り、所、由、 入、と、出、る、語、を、平、平、二、字、に、用、い、た、り、由、り、所、由、	詩者、外山正一、此、詩、集、を、著、す、る、に、由、り、所、由、 入、と、出、る、語、を、平、平、二、字、に、用、い、た、り、由、り、所、由、 入、と、出、る、語、を、平、平、二、字、に、用、い、た、り、由、り、所、由、
夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、 夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、	夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、 夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、
夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、 夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、	夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、 夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、
夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、 夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、	夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、 夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、夫、の、名、を、よ、め、て、是、れ、を、名、と、す、る、を、

森鷗外「マクベス」(大正2年刊)に寄せた坪内逍運の序文原稿(右)と、逍運朱筆の入った「マクベス」原稿

森鷗外「マクベス」(大正2年刊)に寄せた坪内逍運の序文原稿(右)と、逍運朱筆の入った「マクベス」原稿

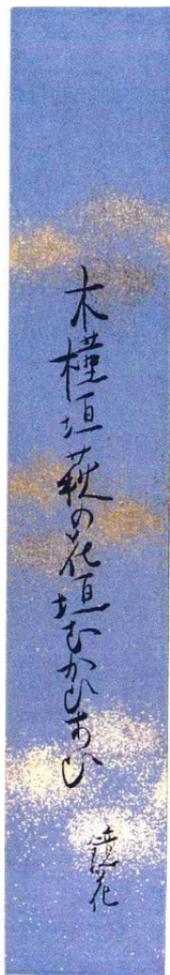


尾崎紅葉書簡(小杉天外宛)

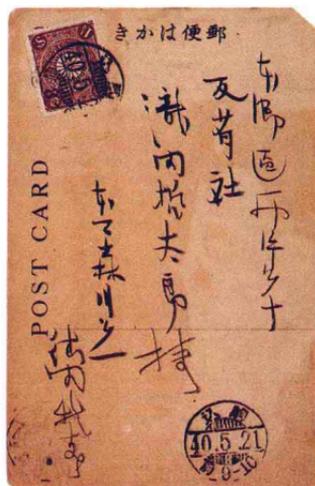


尾崎紅葉「伽羅枕」口絵(武内桂舟画)

泉鏡花の短冊「木槿垣萩の花垣むかひあひ」



徳田秋声はがき(滝田樗陰宛、明治40年5月21日)



平凡... 草口一葉「たけくらべ」草稿
 平凡... 草口一葉「たけくらべ」草稿

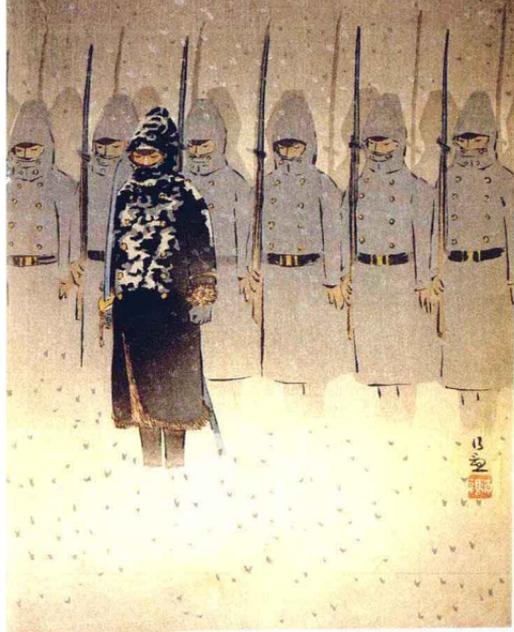
草口一葉「たけくらべ」草稿

紙用稿原開新日朝京東
 平凡 二十八
 此稿... 草稿

紙用稿原開新日朝京東
 平凡 二十八
 此稿... 草稿

二葉亭四迷「平凡」原稿

小林清親画「日清戦争・威海衛上陸進軍之図」(明治28年)



島崎藤村の故郷・長野県馬籠



雨の来し由早速まゝいそいでる可き今
 用ゐるわくしりきと内下
 天和君に御紹介のせし事一快事は
 片柳と世帯屋をせし翰庵にて内侍ら申せ
 宜敷序作すはせし
 轉長致し世はは紅葉鎮は能楽堂の
 程かゝり世の仲には神と
 胃は日帯のけき五日夕景に外一候し(晩天前)

北村透谷はがき(島崎藤村宛、明治25年9月2日)

早稲已渡所三日十の心去村云
 島崎春樹殿
 其の園地第二号の
 郵便はかき
 北村透谷



徳富蘆花画「豆子の図」(水彩)



東京三鷹にある国木田独歩
「山林に自由存す」の碑

三行下キ
 三九字語十行。
 三九字語十行。
 三九字語十行。

親譲りの無鉄砲で小作の種ばりし居り。
 小学校に居り時方学校ニ移りて一週間程
 睡を授けし事あり。おせん不無闇をしと聞え
 人があつても知らぬ。別段深い理由で何事も
 新築ニ移りて首を出し居り、同級生一人が必
 しいくつ刷張つても九条の飛り降り出さない
 病也。おやかの大きさを恥しし二階位に飛り
 降つて来り。おやかの大きさを恥しし二階位に飛り
 降りて勝を授けし事あり。おやかの大きさを恥しし
 すりに飛んで見せし事あり。おやかの大きさを恥しし
 親譲りも有り。西洋製のナイフを貰つて弄藝も及ぶ

日に翳して立達に見せて居り、一人が光り居り、
 切れさうも無いと云つて。切れぬ事あり、何れも切
 つて見せ。と受け居り。おせんおやかの大きさを恥しし
 りと注文したる指此處よりと木の甲の親指の甲を
 ばすにあり。今に親指は健在なり。近し剣痕は死
 め込消えぬ。

庭を東へ二十歩行き、東へ二十歩行き、東へ二十歩
 菜園あり。真中に栗の木一本立つて居り。是は余
 じり大事不栗。実り熟す、時合は取り、若くは
 出で、後方と取捨つて、おせんおやかの大きさを恥しし
 例の山城と、座敷の座敷で、此座敷に助太郎と云ふ十

柳澤文庫

夏目漱石

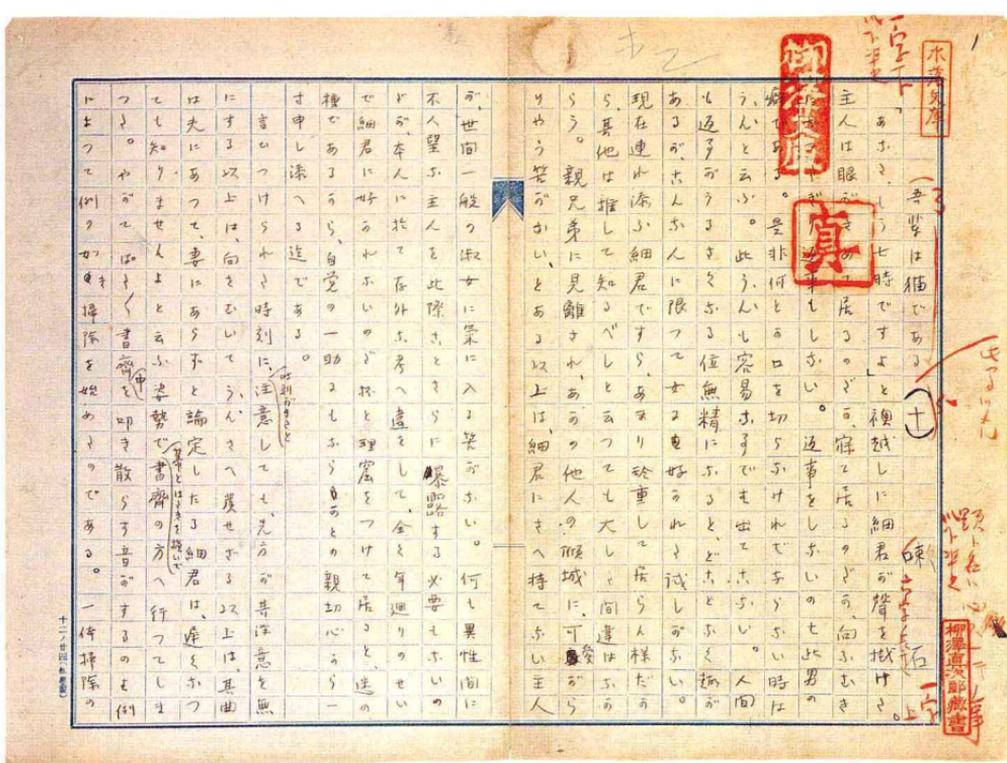
漱石「坊つちやん」原稿



漱石「幻影の盾」深虚集「明治39年5月、収録」さし絵（中村不折画）



『坊つちやん』の舞台、松山中学校校舎。今も明教館として現存



漱石「吾輩は猫である」原稿

小林清親画「日露戦争・大激戦二百三高地占領」（明治38年）



大激戦二百三高地占領



文づらひ

一三三子
鴨外漁史

（一三三子）
それが一の宮の催し玉ひし星が岡茶寮の獨逸會も洋行の
りの物枝次を遂うて身の上話せぬらんし時のとなりし
か、こよひをお身が物語聞くべき筈なり、庭下も待まぬて
おぼされぬと促されて、おの大尉となりて程もあらじと見
ゆ、お林といふ少年士官、口を叩へし巻煙草取り、火鉢の
中へ灰振落し、仔細らしく身構と語りぬ。
こがガツセン軍團はつづられて、秋の演習のあきしきり、ラ
アゲキツツ村の邊まで、術語は定まりたる敵といふ陣まづ

鷗外の書 高湛（タカシズ）の訓もあるは
鷗外森林太郎の諱

昔有道士求神仙靈真下試心確然千鈞巨石一髮懸
卧之石下十三年存道忘身一試過名奏玉皇乃升天雲
氣冉々漸不見留語弟子但精堅
車蘆州五古 源高湛

車二十音書

即日批評を
かゝりな特
よふなり、あ
折上、二十音
目録
以て



→森鷗外「文づかひ」原稿冒頭（上）と「文づかひ」
初出の「新著百種」の表紙装幀下書き